

下剤に頼らない 自然排便を促そう！！

特別介護老人ホーム 吉津園
生活相談員 濱野 義紀
介護支援専門員 岩附 友佳

対象者Sさん

- * 年齢 74歳 性別 男性 要介護度4 療育手帳A所持
- * 身体状態
脳梗塞後遺症により、右片マヒ。慢性腎臓病
移動：車いす全介助

排便状態

- 4日で坐薬、
- 5日で浣腸を使用し、
- 6日で排便がある。

Sさんの取り組み経過

- 平成23年7月7日～ 昼夜オムツ対応だったが、日中トイレ誘導を開始。→**排便に変化なし。**
- 平成23年10月27日～ 朝、白湯を提供。→**排便に変化なし。**
- 平成24年3月14日～ 朝「イージーファイバー」(食物繊維)スプーン1杯、温かいお湯に入れ提供。
- 平成24年3月23日～ イージーファイバーを2杯に増量。
- 平成24年4月10日～ イージーファイバーを3杯に増量。
排便間隔は変わらないが、取り組み以前より、便が柔らかくなった。

Sさんの取り組み経過 その2

- 平成24年6月7日～ ①イージーファイバー3杯提供
②水分1200mlの提供
③ヤクルト400を1日1本提供

結果

2週間様子を見たが、自然排便はなく、-7日で浣腸を使用し排便がある状態。Sさんの場合、食物繊維は多く摂取できていたが、運動はできていなかった。トイレ誘導にて、便座に座らせての排便を試みたが、効果はなかった。

6月22日～ 乳果オリゴ糖7gとヨーグルト1日1個提供し、経過観察する。

対象者Uさん

- * 年齢 73歳 性別 男性 要介護度4
- * 身体状態
糖尿病、中度の認知症
移動：スイング式車いす 全介助

排便状態

- 3日でプルゼニド2錠投与
- 4日で坐薬を挿入し、排便がある。

Uさんの取り組み経過

- 平成23年3月16日～ 毎朝ヨーグルト1個提供



ヨーグルト提供前は-4日で坐薬を挿入し、-5日で排便があった。提供後は、-4日で坐薬使用したら、その日のうちに排便が出るようになった。

しかし、自然排便が出るようにはならず、目立った効果はなかった。

Uさんの取り組み経過 その2

平成24年6月7日～ ①水分1500ml以上の提供
②プロバイオティクスヨーグルトの提供
③乳果オリゴ糖7gの提供

結果

－4日に坐薬を使って、排便がある状態。改善は見られなかった。

Sさん同様、運動ができないためか、上記取り組みを始めて2週間程度経過しても改善が見られなかった。

対象者Tさん

* 年齢 100歳 性別 女性 要介護度5
* 身体状態
重度の認知症、コミュニケーション困難。
移動：車いす全介助、短い距離ならつたい歩き可能

排便状態

－3日でラキソベロン5滴投与、
－4日で10滴投与
－5日で坐薬を挿入し、排便がある。

Tさんの取り組み経過

平成20年当時、－5日で坐薬を挿入し、排便がある状態。便失禁や使いじりが多く見られた。本人も介護者もストレスを感じていた。



排便コントロールの取り組み

平成20年12月5日～水分量の確認とトイレ誘導時に歩行し、腸の動きを促すことから始めた。平成21年1月30日～お茶200mlに食物繊維2杯を溶かし提供。平成21年3月16日～3杯に増やして様子を見る。



結果

－4日で坐薬挿入し、排便がある状態。便失禁は無くなった。

Tさんの取り組み経過 その2

平成24年6月7日～ ①トイレ誘導時の歩行運動
②食物繊維1日3杯提供
③水分1500ml以上の提供
④プロバイオティクスヨーグルトの提供
⑤乳果オリゴ糖の提供

結果

－3日目で下剤を使わずに、自然排便があった。しかも2回続けてあり、何年かぶりの自然排便に取り組みを行った職員間でも喜びの声が上がった。

考察

- ADLの能力が高ければ高いほど、ヨーグルトやオリゴ糖、食物繊維の効果が高まる。
- 自然排便には、運動が重要な要素である。
- ヨーグルトのみや水分のみなどの単独の取り組みでは、効果が出にくく、運動や水分、ヨーグルトなどを併用することによって効果が生み出される。
- ヨーグルトやオリゴ糖などの食品の効果には、個人差があるということ。

今後の課題

- 吉津園では－3日目で下剤使用、－4日目で坐薬を使用するという傾向にある。仮に下剤を使用しなければ、－5日目で自然排便がある利用者に強制的に下剤を使う恐れがある。下剤投与時期の検討。
- ADLの低い利用者に対しての取り組みの再検討。
- 施設全体の取り組みに繋げるための方法の検討。



ご清聴ありがとうございました。